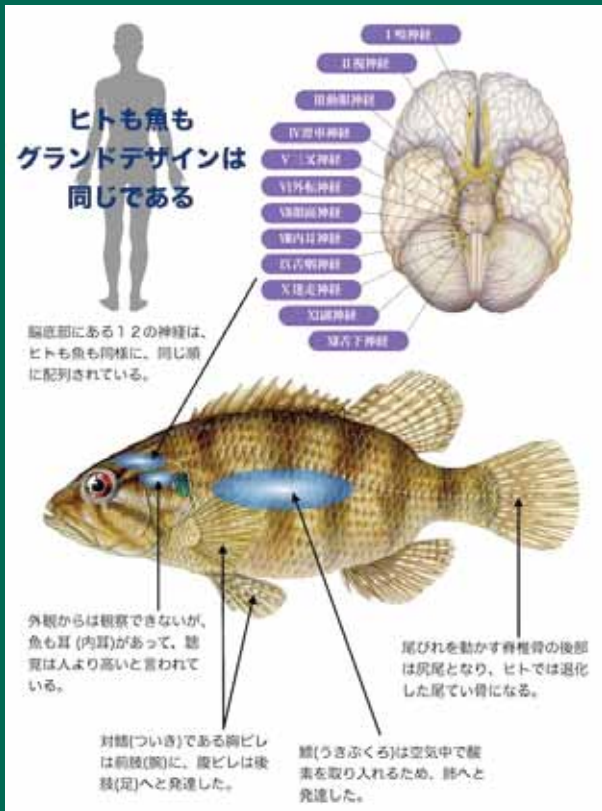


連載している大阪工業大学の綾教授のコラムは  
残念ながら休講です。  
その代わりに小村先生にご登場いただきました！



人は魚のアップグレード版？

哺乳類のヒトは魚と全く異なる生物のように見えますが、元は同じだと感じる時があります。当然、魚にも耳（内耳）はありますし、私たちの肺と相同する鰓（うきぶくろ）を備えています。当然、四肢はヒレが変化した器官です。卵子が細胞分裂し胚として成長していく初期過程では、魚もヒトも似た形態であることは有名です。また、脳に直結する視神経や嗅神経、三叉神経など12の神経は、数億年前に出現したサメと今のヒトが全く同じ配列です。つまるところ、脊椎動物のグランドデザインは太古、魚の時代に完成されていて、劇的に変化したわけではありません。環境への適応、種としての勝ち残りのため、進化の伸び代を最大限に活用(かなり無理しながら)した結果なのです。水面下という異次元に生きる魚を初期的なパソコンに例えるなら、そのOSを変えずにバージョンアップやアップグレードを繰り返したのが私たちなのです。背骨を持つ生物は、すべて水中から始まりました。魚とヒト、実はとても近い生きものなのです。

岐阜大学 医学部 講師 小村一也

# 淀川自然 画報

2014年1月号

No.5

淀川水系の生物多様性を  
見る・知る・楽しむ  
生きもののシグナル

YODOGAWA  
SHIZEN GAHO

## 水辺の博物誌



俊敏なプレデター

ニホンイタチ *Mustela itatsi*

泳ぎが得意で、時には潜水することもある水辺のハンター。淀川流域に広く生息していて、昼夜問わず単独で活動している姿が見られます。小さいながらもりっぱな肉食獣で、自分よりも大きなウサギやニワトリを獲物にする獰猛さの反面、2本足で立って周りを見回る＝目蔭(まかげ)という行動をとる、用心深さも備えています。（画／えみ・まよ）



## 来た・見た・聞いた 淀川雑記帳



野外に捨てられた外来種のカメたちが、生息域を拡大し続けている。在来種と思われていたクサガメ、実は江戸時代に日本へ持ち込まれた外来種であることもわかった。そして、野外ではクサガメとニホンシガメの交雑種が誕生し、研究者の間で問題視されている。外来魚の知識の普及や駆除活動は各地で積極的に進められているが、私が思うにカメの問題はあまり知られていないのではないだろうか。

過日、ミシシippアカミミガメが「カップ入りミドリガメ」という名前でネット販売されているということを岡山の環境カウンセラーが教えてくれた。現在、このカメは要注意外来生物であり、輸入・販売・飼育に関する制限はない。そのような中、ようやく環境省が特定外来生物指定への検討を始めるそう。2月には「第1回 淡水ガメ情報交換会」が行われる。カメにも注目だ。（編集長・石山郁慧）

河川と環境の法律相談所  
legal advice



### リード無しの犬の散歩

人を自然に近づける川いい会 弁護士 藤原 武士

河原の遊歩道で、犬にリードをつけずに散歩させたり、フリスビーで遊んでいる光景を見ることがあります。犬が人を噛んだ場合、飼い主は民法718条に基づき、動物占有者として、ケガを負わせてしまった人に対し責任を負わなければなりません。犬が人を噛んだ場合だけでなく、犬が近づいて、これを避けようとした7才の男の子が自転車ごと川に転落し、右目を失明した事故でも飼い主に対し、責任を認めた判例があります。この事故の犬種はわかりませんが、体長約40センチメートル、体高約20センチメートルの犬だったそうですから、それほど大きな犬ではありません。河原で散歩をしている人の中にはお年寄りや、小さな子供もいます。近づいてきた犬が恐くて、避けようとし転倒し負傷させれば、飼い主も責任を負わなければいけないことを自覚しましょう。マナーとして、犬のリードをつけて散歩させなければいけません。



デザイン監修：NPO法人nature works 泉野幸彦・ありさだあきよ  
イラスト監修：NPO法人nature works 小村一也  
取材協力：人を自然に近づける川いい会  
発行支援：国土交通省 淀川河川事務所

バックナンバーは、<http://npo-natureworks.net/> の「無料の資料」からダウンロードできます。

発行責任者 淀川管内河川レンジャー・石山郁慧